

会員とセンターをつなぐ広報誌

生きがい八王子



編集・発行
公益社団法人
八王子市シルバー人材センター

〒192-0062 八王子市大横町11-35
TEL 042-626-1274
FAX 042-626-5159
E-Mail hachioji-sc@sjc.ne.jp
HP <https://hachioji-sjc.org>

第119号 2024年 新年号

第一部 センター活動

謹賀新年



八王子市長
八王子市シルバー人材センター名誉会長
石森 孝志
たかゆき

石森 孝志

八王子市シルバー人材センター会員の皆様、あけましておめでとうございます。健やかな新年をお迎えになられたことを心よりお慶び申し上げます。旧年中は、市政に対し格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが「5類感染症」に移行して以降、社会経済活動がコロナ禍から元の状態へ戻りつつあります。会員の皆様も各地域でその経験や能力を充分に発揮されたのではないかと思います。

一方で昨今の社会経済情勢は、エネルギーや食料品価格等の世界的な物価高騰や急激な為替変動の影響により、市民生活や地域経済を取り巻く環境は不安定な状況が続いています。また、少子高齢化の進展、気候変動や新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえた新たな社会の構築など、社会の変革が必要な構造的な課題に直面しています。こうした状況の中で、シルバー人材センターには、状況の変化に対応しながら競争力を高めて、社会参加に意欲ある高齢者に対し、就業並びに社会奉仕等の活動機会を確保し、高齢者の能力を生かした活力ある地域社会づくりに寄与する役割が求められています。

貴センターにおかれましては、オンライン入会説明会の導入による会員数の増強や新たな就業先の獲得・拡大に取り組み、事務改善の一環としてデジタル技術を取り入れられています。近年では、女性会員が主体となり開催された「ハーバリウム教室」が注目を浴びるなど、新たな取組も始められています。また、長年にわたり浅川河川敷の清掃ボランティア活動を始めたこと、各種ボランティア活動による地域社会で活躍されていることに、心から感謝の意を表します。

現在、本市では長期ビジョン「八王子未来デザイン2040」に掲げる施策を推進するため、本年4月からスタートする「八王子市高齢者計画・第9期介護保険事業計画」の策定を進めております。誰もが安心して暮らすための地域福祉の推進に向け、会員の皆様のご協力もいただきながら取り組んでまいりますので、よろしく願います。

結びに、八王子市シルバー人材センターの益々のご発展と会員の皆様のご健勝並びにご多幸を心から祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

八王子市シルバー人材センター

会長 園部 正範

会員の皆様、あけましておめでとございます。

昨年は世界のあちらこちらで、紛争が起こり世界中の多くの方が胸を痛めることになりました。早期の解決が望まれますが、大変悩ましく難しい問題です。

さて、当シルバー人材センターも長い間受注していた大型契約を失ったためによる収益赤字に加えて、事務所移転という難題を抱えることになりました。会員・事務所職員の皆様と力を合わせて、より良き解決を目指して努力してまいります。

今年度も転倒事故が多く発生し、中でも自転車での事故が増えています。就業の行き帰りにも充分ご注意ください。事故による怪我が骨折につながり、その後の日常生活を困難にしている例が多くなっています。

昨年度、数件生じた規則違反の不祥事は、今年度は現在まで起きていません。会員皆様の規則順守の意識が高くなってきました。

たものと思います。特に個人宅の仕事は顔馴染みになることにより、お客様の方から直接依頼されることがあります。そんな時は「ご面倒でも事務所に電話で依頼してください」とはつきりお伝えしましょう。会員がお客様と直接やり取りするとは固く禁止されています。

当シルバー人材センターの行事・ボランティアについて、参加する会員から呼びかけられると初めての方も参加しやすいようです。参加者を増やすために是非他の会員へも呼びかけてください。会員が大勢集まると行事等も盛り上がり、より楽しいものになります。

今年一年が会員皆様にとつて健康で幸多き年でありますよう祈念いたします。



八王子市シルバー人材センター

常務理事 伊比 洋司

新年あけましておめでとございます。会員の皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃よりセンター運営に多大なるお力添えをいただいていること、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

昨年は、コロナ禍もほぼ終息し、社会は以前と変わらぬ日常の賑わいを取り戻しつつあると感じます。会員の皆様には、約3年にわたり、コロナ感染症拡大防止のため、様々な対応をお願いいたしました。会員の皆様、この間のご協力に感謝申し上げます。

センター活動も昨夏以降、ほぼ従前の水準で再開しております。本年も2月の夢街道駅伝への参加を初めとして、様々な行事に参加し、シルバー人材センターの認知度向上を図っていきたいと思います。また、講座・研修も回数を増やしていく予定です。2月には健康をテーマとした講習を実施予定であり、コロナ禍でしばらく休止していた3

年目研修を再開いたしますので、対象会員の皆様は是非参加をお願いいたします。

さて、最後に私から会員の皆様にお願ひがあります。様々な活動が再開されるのと並行して、事故が大変多くなっています。昨年の十一月末の時点で、シルバー保険の対象となった傷害事故だけでも十六件と過去最高を大きく更新しています。事故の内訳は転倒5件・熱中症2件・虫刺され3件・自転車2件・就業中の不注意による打撲、切り傷等4件です。事故の発生を「他人事」と思わず、今一度、自分の行動を振り返っていただきますようお願いいたします。

これから寒い季節を迎えます。家を出る前に軽く体をほぐす、保温性に優れ、動き易い服を選ぶ、就業前に軽く体を動かす、そんな運動の習慣づくりで事故防止に努めていただければと思います。私も、事務局までの往復に自転車を使っていますので、「交通ルールの遵守」も合わせて気を付けたいと思います。

転倒注意



常任委員会

総務委員会

委員長 浅原 ユリ子

これまでの良かった取り組みを活かし、課題解決に努力し、委員会がどのような活動をしているかを会員の皆様にも周知出来るよう情報をお届けしていきます。会員の皆様からシルバーに入っている方が多かったと思えるよう総務委員会は活動していきます。



業務安全委員会

委員長 杉浦 茂樹

コロナが5類となり静かな日常にと願うのですが、シルバーは施設管理の失注やインボイス負担が10月より増加し、令和5年度は経費削減をさらに強化しながら運営しています。また、令和7年には事務所の移転が具体化します。課題が多く目の前に迫っていますが、会員相互の連携をもち、情報を共有してこの難局に知恵を出し合いながら乗り切りたいと考えています。女性委員会と統合しましたので、女性会員の柔軟な視点を生かす取り組みを展開していきます。2023年度の取り組み後半に向けて、

- ①財務状況の把握
- ②増収施策の創出↓就業率の向上+女性会員の活動
- ③会員の資質向上に向けた各種研修会↓3年目研修の復活
- ④財務状況改善した場合、費用弁償を廃止し、役員報酬制の導入
- ⑤シルバー5か年計画の推進
- ⑥会員の拡大と就業開拓↓就業WTの活動

業務・安全委員会のご紹介をしたいと思います。昨年7月に安全管理委員会と業務委員会及び就業対策委員会を統合し半年が過ぎ、年度当初の各委員会の活動計画を踏襲し、作業品質の向上、安全関係では、安全管理体制の充実、安全就業の遵守の徹底、事故防止対策の実施、健康管理の啓発に向けた活動を継続しております。作業品質は、安全就業の遵守の徹底や事故防止対策を行う事により作業品質の向上にも直結することによるシナジー効果の一つであり、さらなる効果が得られるように活動していきたいと思えます。

今回は、この紙面をお借りして

「転倒予防勉強会」に参加し、印象に残ったお話の紹介です。勉強会の講師が云われたのは「高齢者には、転倒を防ぐのは難しいので、転倒した際、重篤事故にならないような身体づくりを心掛けるべきで、近年の研究で歳をとっても筋力を鍛えることによって骨密度が高く転倒した際に骨折しにくい身体づくりを行う事が望ましい。」との一言でした。紙面の都合で具体的な方法は、別な機会を設けてご紹介したいと思います。

会員の皆さんに、健康を維持していただき就業していただけるよう、事務局の協力・支援を仰ぎながら会員の皆さんの期待に応えられるような活動、情報提供を進めてまいりたいと思えます。

広報委員会

委員長 黒田 茂夫

広報って何？私達会員にとって広報は意味があるの？市役所の方、地域の方など外部の皆さんはシルバーを知っているのかなあ？

広報はシルバーの活動内容、仕事内容、事務連絡などの情報発信を内外に行なうこと。広報委員会はシルバーの良さを宣伝PR発信し、並行して情報、評価を受け

ステークホルダーにシルバーのことを知っていただくように取り組んでいます。知っていただくことによりお仕事をいただき、会員一人ひとりがやりたいこと、好きなことに就き、生き生きと生活をおくることができます。

宣伝PRはイベント参加、自分たちでイベント『ここにこフェア』開催、ボランティア実施・参加、機関紙「おおるり」、「生きがい八王子」の発行など会員の皆さん全員により行いますのでご支援ご協力をよろしくお願いいたします。ゆくゆくは情報がタイムリーに随時発信され、欲しい情報が受け手に届き、見やすい形で手に入りますよう進めていきたいと考えております。

地域委員会

委員長 岩澤 孝嗣

よりよいシルバー人材センターに向けて、地域委員会は、会員や地域連絡員の活性化や地域との連携の強化に向けて諸活動を進めています。

地区活動としては、地区毎に年4回ほどの地区会議、外部講師を招いての地域懇談会や新入会員交流会を開いて、地域連絡員の情報共有化、一層の連携強化や、地域班内の交流推進をはかっています。

また、今年度は5年振りに地域連絡員研修会（旧班長・副班長研修会）を実施し、多数の地域連絡員が参加しました。研修のねらいである地域連絡員の任務、役割の確認、会員とのコミュニケーション力の向上について、多くの参加者の理解が得られ、地域班の更なる活性化が期待されます。

地域との連携では、各地域の市民センター祭り、にこにこフェア、市施設の環境整備ボランティア、浅川清掃、いちよう祭りの清掃ボランティアを行い、センターのPRや新入会への誘い活動を実施しました。

引き続き地区活動や地域との連携活動を進めて参りますので、会員の皆様、地域連絡員の皆様の積極的な参加をよろしくお願いたします。

イベント報告

「いちよう祭りに参加して」

理事 三浦 和春

私は、74歳というこの歳になって今回初めて「いちよう祭り」に参加しました。幸いなことに今回は好天に恵まれたこと、また、コロナ明けということも

あってか大勢の観客が訪れ賑わいました。

そして、その規模の大きさと観客数の多さには目を見張るものがありました。私たちの今回の役割は、陵南橋付近に設置した拠点において訪れた観客に対してシルバー人材センターのことを知って貰うための「声掛け」及び「周辺のごみ拾い」等が主な役割で私は、声掛けの方を担当しました。

声掛けは主に高齢者を中心としましたが、若い人たちの中にも関心があり、聞いてくる人もありました。そして声かけたほとんどの人がシルバー人材センターに関心を寄せて熱心に耳を傾けてくれました。そんな中で、60歳代の男性が定年後、妻を亡くして現在は一人暮らしで人生の目標がなくなり毎日が寂しいとの言動からシルバー人材センターでの就業、ボランティア活動、高尾山登山等々を説明したところ、とても熱心に聞いてくれました。高齢者が生きがいをもって今後の人生をおくることとがシルバー人材センターの主眼である、私自身も他人事とおもえず何かとても嬉しい爽やかな気持ちになりました。今

後も多くの人々に接し、シルバー人材センターでの交流を通じて有意義な人生を送りたいものと思っております。



「はちおうじNPOフェスティバル2023」

理事 中村 一彦

9月28日、昨年オープンした東京たま未来メッセで「はちおうじNPOフェスティバル2023」が開催され、八王子市シルバー人材センターでは入会案内のPRと「ハーバリウム製作コーナー」を設置し入会促進を行いました。

八王子市シルバー人材センターの業務内容についてTVモニ

ターやパンフレット及び各々の仕事を紹介したパネルを用いながら説明を行い、約80名近くのお客様へウエットティッシュとボールペン等とエコたわしを配布しました。結果、入会説明会申し込みは4名でした。中には、足の少し不自由な方がいて、「放課後子ども教室安全管理」を希望しており、自分で仕事が出来るか心配していましたが、当方も経験があるため、現地で受付業務だけでも出来ることを伝えました。

また、仕事の紹介パネルの展示場所については、見づらい点もあったため、来年に向けて改善したいと感じました。





第二部 会員中心

※今号は印刷の都合で2枚に分かれています。



職種班だより

植木班 卯之原 文康

(会員番号 8978)

「第二の人生は植木職人として歩む」

八王子市シルバー人材センター植木班の会員は稀に植木屋上がりの人もいますが、ほとんどが60歳を過ぎてから第二の人生を植木職人として歩んでいる方です。

主な業務は一般家庭を中心に工場、マンション、お寺などの植木の手入れです。シルバー人材センターへの信用・信頼で注文を出してくれるお客様の期待を裏切らないように丁寧な仕事を心がけています。外仕事なので暑い日、寒い日、雨の日などつらい時もありますが、綺麗に仕上がった時などはお客様から感謝され木々も心なしか喜んで見えてきたり、とても充実した気持ちになります。

仕事をしているから健康なのか、健康だから仕事を続けられるのかわかりませんが、体が動くうちは仕事を生きがいと

して植木仲間と楽しく人生を送ろうと考えています。

除草班 佐藤 修敏

(会員番号 10811)

「貢献寿命の延伸を」

これまでは健康寿命の延伸が叫ばれてきましたが、現在は「貢献寿命」の延伸が「幸せな晩年」を送るためには重要であると考えられています。

社会と接点を持ち、社会の役に立っていると感じられる期間を「貢献寿命」と定義されています。

除草班は、雨(多くは中止)・風・夏の暑さ・冬の寒さにも負けず、お客様のために働いています。作業後のお客様より「きれいになりました。次回もまたお願いいたします。」と感謝されると、貢献感が更に増します。

除草班全員80名の平均貢献寿命はシルバーの中で最長かと考えます。90歳で元気に働いている班員もいます。さらに貢献寿命を延ばしましょう。

除草班への加入は簡単です。座学・実技各2時間の体験をしていただき、希望すれば班員となれます。皆様の加入をお待ち

しております。

パソコン班 宮崎 周一

(会員番号 9247)

パソコン班は、「親切・丁寧・安心」をモットーに、24名のメンバーでスマホやパソコンのサポートを行っています。

活動には、

- ① パソコンやスマホのお困り相談(パソコンお助け隊による訪問サポート)
- ② スマホ講座やパソコン教室の開催
- ③ パソコンの導入、設定、保守作業
- ④ パソコン・スマホなどの個別支援(プレゼン資料作成、データ作成、パソコン管理等)

があります。

また、市からの委託で健康習慣支援ポイント「てくポ」の説明会も行っています。

これからの活動の範囲を広げる計画です。

筆耕班 興 昭 由 紀子

(会員番号 11917)

「就業支援講習会に参加して」

私はこのたび、東京しごと財団主催による就業支援講習「毛

筆筆耕(宛名書き)」を受講してきました。

内容は、宛名書きに必要な知識と技能を学ぶものです。先生がテキストを用いながら講義をされ、私たちは与えられた課題を書いて提出し、先生が添削してくださいました。住所や名前を限られたスペースにバランスよく割りつけるのは色々なバリエーションがあり、とても難しかったです。

今回受講して、書道の基本や応用など幅広く勉強になり、とても刺激になりました。

この経験を生かして、高尾山や卒業証書の筆耕も、さらに気を引き締めて頑張りたいと思います。

これから毎月第三木曜日のすみれ会書道教室に参加し、先生方のご指導を仰ぎ、練習を重ね、力をつけていこうと思っております。最後に、このような機会をいただき感謝しております。

刃物研ぎ班 小峰 彰夫

(会員番号 12058)

全てのものが満たされ「モノ余り」といわれて久しいです。

身の回りには使い捨てのもの

が溢れ、生活全般が豊かになる一方でゴミが社会問題化し、ゴミの減量や資源の有効活用は環境対策の上で重要な課題となっています。

従来は各家庭で使用される刃物、特に身近な包丁は各家庭で研がれ長く使われていくものでした。

私たちが行う刃物研ぎは、刃物を使い捨てにするのではなく切れ味を再生して長く使用していただき「物を大切にするライフサイクルへの転換、これから求められる循環型のライフスタイル(SDGs)の実現に寄与する活動」と考えています。

誰もが古くなった自分の道具である大切な刃物を捨てるのは戸惑います。しかし、再生できれば思い出のモノとして長く使用することが出来ます。本活動を通して近辺に刃物店などがなく、出前刃物研ぎも少なくなっていること、地域に貢献できるものと考えています。

右記の文章は、刃物研ぎ班の「活動理念」として掲げられているものです。いまだ実現途上の理念であります。再挑戦の強い意志

を新年のスタートにあたり、公に誓う意味での投稿であります。

配布班 渡辺 健次

(会員番号 5966)

広報誌配布業務は、市の情報を逸早く全市民に届ける任務を担っているのが公共性が高く責任と誇りをもって仕事を行っております。

この他にも高齢者家庭のポストから判断する見守り業務を市と協定を結んで行っています。

広報誌の配布期間は宅配便到着日から広報誌発行日前日迄の四日間の配布員の都合の良い日に行えば良いので永続勤務している配布員がかなり多くおります。しかし、最近では高齢を理由に辞任する方が増えてきており、新配布員の補充が追いついていないのが実情です。

新入会員の方が配布に興味を持ち、配布を希望することを期待しております。



会員だより

中部地区 阿部 広子

(会員番号 12681)

広報配布を始めてみて

私がこの仕事を選んだのは、健康維持のためと配布の回数が月二回というのが丁度良いと思います。軽い気持ちで始めました。

最初の二か月は配布日の天気が気になり、既定の期限内に配り終えられないのかと心配でしたが、回数を重ねるにつれ、徐々にペーパスをつかめるようになりました。配布のペースに慣れてくると次は広報誌の重さが気になりはじめました。冊子の一部は軽いものですが、百部二百部になると思ってもみなかった重さになります。幸い今のところ困ったことはありませんが、受取部数に数部だけ余分があると配布数の変更に対して早く対応ができるので安心感があります。

今は、できる限り一日で終わらせるようにしていますが、無理は禁物と自分に言い聞かせ、怪我をしないことを第一に頑張っています。

今後、もう少し気持ちに余裕が出来たらより楽に配布できるようにしたいとおもいます。

西部地区 三浦 和春

(会員番号 11722)

西部地区の奥に今熊山があります。標高は500メートルを少し超えるくらいのもですが、歴史もある変化に富んだ由緒ある山です。江戸時代のころまでは、「呼ばわり山」と云って、その当時は行方が分からなくなった人をこの山にきて祈願すると探しあてることが出来る山として関東一円から大勢の人々が訪れていたとのことでした。

戦前のころまでは、山頂に社があったのですが、火災で焼失して現在はそのふもとに移転しました。山頂にいたる参道脇には石灯笼等が残っていて往時の面影が偲べれます。

高尾山と違い訪れる人も少なく、とても静かな落ち着きのある山です。この山の有名なものは春先に咲く「三つ葉つじ」があります。見事なものでこの時は大勢の見学者が訪れ賑わいます。もう一つ言いたいのは、神社の分所が神奈川県相模原にあるようですが、相模原には日本航空宇宙研究所「JAXA」があります。有名な「はやぶさ2」が宇宙で交信が途絶えて行方がわからなくなった時、関係者がここで祈願したそうです。その甲斐があって「はやぶさ2」と交信が再開でき、「はやぶ

さ2」は見事地球に無事帰還して目的を達成することが出来ました。

今熊山はとても縁起のいい山です。機会あればぜひ登ってみてください。

西南部地区 長谷川 みゆき

(会員番号 13000)

私は2022年12月27日に、八王子市シルバー人材センターに入会しました。

理由は妹から誘われたからで、何の知識もない状態でした。会員ナンバーが13000番と切りのよい数字で、会員証の写真を見てもっとちゃんとした恰好をしていけば良かったなどと思っただけくらいで、仕事に来ることは想像もしていなかったのですが、4月には広報配布のお仕事をいただきました。

9月17日、めじろ台会館で西部地区班別会議が開催されることのお知らせを受け、初めて出席させていただきました。そこで地域連絡員のお話をうかがい、内容は所属地域の会員のみなさんの中から、毎月数人に電話で近況や要望などをお聞きするお役目とか・・・そのくらいなら私にも出来るかも、などと軽い気持ちで引き受けてしまいましたが、その後、先輩方のお話をお聞きするにつ

れ、だんだん自信がなくなりつつあり、でも引き受けてしまったからには、なんとかせねばとわが身を叱咤激励しているところです。皆様、ご指導よろしく願います。

東部地区 山本 敦三

(会員番号 11865)

先日、コロナ禍で自粛していた「地域懇親会」を行いました。事前の呼びかけに応じていただけた9名の会員さんと地域連絡員2名が東部交流室に集まり、ともに楽しくお話をし、様々なご意見をうかがうこともできました。

また、今年、再開された南大沢地区と由木地区の市民センターまつりに参加するなど地域と連携した活動も開始しています。自分が高齢になり、だんだん「一人」になっていく時、周囲の人に「頼り」そして「頼られて」生活できることが安心につながるのではないのでしょうか。そういう環境を少しずつ築いていくこともシルバー人材センターの大きな役割だと思えます。私も、微力ながら皆さんと一緒に良い方向を目指して努力します。

東南部地区 小笠原 昭

(会員番号 11319)

会員になり早5年が経ちました。入会して直ぐ、広報配布と清掃の仕事が紹介され、これからの健康維持にとその仕事を引き受け、今も変わらずに続けています。私が広報を配布している地域は野菜畑が多く、成長してゆく野菜を観察しながら配っています。時には畑に居る方に声掛けし、栽培のノウハウを教えて頂き私の趣味の1つの野菜作りに役立っています。

ボランティア活動や地域のイベントにも参加して来ました。一緒に参加した地域の皆さん、会員の方々と交流が出来て大変良かったと思っっています。これからも積極的に参加してゆくつもりです。

私の住んでいる小比企町は東南部地区の中央を流れ浅川に合流する湯殿川があります。川沿いは八王子市のウォーキングマップにも紹介されていますが、遊歩道の散策、ウォーキング等で地域住民の方々に親しまれている所です。又、多くの野鳥(サギ、カワセミ、カモ他)が集まるので大勢の方々が自慢のカメラを持って観察に来ています。

すぐ近くには片倉城址公園、片倉つどの森公園、温泉施設があり、大人も子供も楽しめる場所が沢山ありますので一度は訪れてはいかがですか。

中部地区 山田 多栄子

(会員番号 6479)

第一回「さつき会」を終えて

去る十一月一日に檜原町にある私設会館をお借りして「さつき会」の「ダベリングの会」を行いました。実は今年の春五月に準備会として女性十六名の参加で一度開いております。「おしゃべり」は女性の特権と思っておりますが、今回は男性の方からの応募もありまして驚いた次第です。

特にテーマは決めておりませんが、我々シニアが高齢になるにつれての体や脳の衰えを少しでも防ぐ事が出来るような「おしゃべり会」であってほしいと願っています。

まだまだ準備不足で迷いもありますが、今後、皆様からの知恵や知識や特技などのご協力を得ながら、それを参考にして行きたいと思っております。

今回は手品の客人を迎え、その後、お菓子をいただきながら、おしゃべりやゲームやお習字等をして二時間半を過ごしました。(楽しく過ごせたな)と思っております。頂いたならば幸いです。

次回(来春頃予定)おしゃべり時を過ごしたい方はぜひご参

加ください。費用は参加人数にもよりますが五百円前後です。



絵手紙

西部地区 西山 正子

(会員番号 7613)



中部地区 浅原 ユリ子

(会員番号 10508)

「浅川河川敷

清掃ボランティア」

十一月五日、絶好の清掃日和で風もなく久しぶりの会員の顔は和んでいました。全体への呼びかけをしたものの参加者は少なく寂しい感じはしましたが、みんな元気に爽やかにニコニコと清掃を完了しました。

園部会長から皆で集う事が出来る感謝が伝えられ、伊比常務からは、いつもと変わらぬ話題ですが、との前置きがあり転倒防止事故の状況説明がありました。見逃しがちの靴底の劣化も必ずチェックをするよう話がありました。ラジオ体操で準備万端整えて、二班に分かれ市役所から浅川橋を和気藹々とトンダ片手に歩きました。事故もなく時間通り無事終了しました。

また、河川敷に遊びに来ていた高校生二人が我々の行動に感動し、飛び入りで参加し、鶴巻橋の橋桁付近の清掃をしてくれました。事務局スタッフ共々と感動いたしました。



ボランティア

編集後記

コロナ禍も過ぎ、秋季の本会活動も盛会裏に終了いたしました。多くのイベントに沢山の会員の皆様がご参加していただき、ありがとうございました。

本号では、各地地区での活動や会員の皆さんの声などをお届けいたしました。

広報委員会では、これからも会員皆様の声や活動状況等を幅広くお届けしていきたいとおもいます。

会員の皆様、今後も積極的にご投稿ください。(富山)

